

【基本情報】

教 科	地歴公民科	学 年	3 年	教科書	高等学校 改訂版 政治・経済（第一学習社）
科 目	発展政治・経済	単位数 （年間予定コマ数）	後期 2 （ 3 9 ）	副教材	最新政治・経済資料集2017（第一学習社） 進研W I N S T E P （ラーンズ）
科 目 概 要	2 年次の「政治・経済」の基礎的事項をさらに発展的させ、問題演習を通して、「政治・経済」の基礎的事項に関する客観的な見方や考え方をさらに深める科目です。				
到 達 目 標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する今日的な諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
授業の進め方	W I N S T E P を利用して、基礎的事項を確認し、課題についての演習をおこなう。 模擬試験や大学入試問題への演習をプリント等でおこなう。 授業前に教科書、資料集（特にTOPIC）に目を通しておくこと。				
留 意 事 項	授業の板書事項や、説明など重要と思われる事柄を自分なりにメモし、まとめることが大切です。 教科書はもちろんですが、資料集も毎時間使用します。忘れずに持参すること。				
家 庭 学 習	教科書をもう一度読み直し、基礎的事項を確認しておくこと、新聞を書かさず読む習慣をつけること、ニュースを毎日見ることなどの授業以外での家庭学習をおこなうことで、知識・理解・資料活用等の能力が高まります。 授業で行った問題演習以外にも、問題集などの問題を数多くとくことで、思考・判断・表現等の力が高まります。				
備 考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	2 0 %	授業中の様子や、W I N S T E P、課題プリント等の提出状況等で評価します。
B．思考・判断・表現	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場を踏まえ、公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	2 0 %	原則的に定期考査の中で、「思考・判断・表現」に関する問題を出題します。
C．資料活用の技能	現代の政治、経済、国際関係に関わる資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する。	2 0 %	原則的に定期考査の中で、地図やグラフなどを用いた「資料活用能力」に関わる問題を出題します。
D．知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。	4 0 %	原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題します。

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1編現代の政治 第1章民主政治の基本原則と日本国憲法	1 1 1 1 1 1 1	日本国憲法 基本的人権 国会 内閣と行政の課題 裁判所と司法制度 地方自治 選挙と政党政治	◎	○	○	○	基本的事項をふまえて、さらに具体的な事柄（判例・現実社会の状況など）を学習する。
第1編現代の政治 第2章現代の国際政治と日本	1 1	国際連合と国際政治 国際社会の動向	◎	○	○	○	基本事項をふまえて、現実の国際社会の有り様と国際連合の働きについて学習する
第2編現代の経済 第1章現代経済のしくみと特質	1 1 1 1 1 1 1	資本主義の成立と発展 市場と企業 財政と金融 戦後日本経済の歩み 雇用と労働問題 社会保障 消費者・農業・中小企業	◎	○	○	○	基本的事項をふまえて、さらに具体的に経済のしくみを学習する。
第2編現代の経済 第2章国民経済と国際経済	1 1	国際貿易と国際収支 国際経済の変容と動向	◎	○	○	○	基本的経済理論をふまえて、国際経済の実態を学習する。
※問題演習	1						
後期中間考査	1		○	◎	◎	◎	
第3編現代社会の諸課題 国際社会の諸課題と日本の政治や経済の諸課題	1 1 1 1 1 1	地球環境問題と日本の環境対策 南北問題と日本の経済協力 円高・円安 需要と供給 国民所得 比較生産費説	◎	○	○	○	基本知識をふまえて、日本や世界が抱える具体的な課題について学習する
※総合演習	13	大学入試問題演習、センター試験対策	○	○	○	○	
年間総予定コマ数	39						

※このシラバスは、あくまで予定を示したもので、状況により時間配分や内容などを変更することがある。

【基本情報】

教科	数 学	学 年	3 年	教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅲ（数研出版）
科目	数学Ⅲ（α）	単位数 （年間予定コマ数）	3 （156）	副教材	4 プロセス 数学Ⅲ（数研出版）
科目概要	・数学Ⅲは、数学Ⅱに続いて履修する科目である。2年次で学習する「微分・積分」について、より深く学習する。将来、数学が必要な専門分野に進学する場合（特に理系大学進学）において必要となることが多い科目である。 ①微分法 …あらゆる関数の導関数を求める。 ②微分法の応用 …微分の計算をもとに、さまざまな関数のグラフを書いたり、方程式・不等式へ応用する。 ③積分法とその応用…あらゆる関数の積分計算を行う。また、面積や体積、曲線の長さを求める。				
到達目標	・微分法・積分法についての理解を深め、知識の習得の状態と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標とする。 ・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できるようにする。 ・教科書の問、節末・章末問題を解けるようにする。				
授業の進め方	・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・単元が終了するときには教科書の章末問題にも取り組む。 ・教科書の「発展」「節末問題」も学習する。 ・進度によっては臨時に単元テスト・節末テストを定期的の実施する場合がある。				
留意事項	・教科書・問題集・ノートを忘れずに準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。そのため、授業用のノートと問題集用のノートを別に用意するのが望ましい。				
家庭学習	・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例題・問を自力で解き直し、問題集の該当問題を解く。 ・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにする。 ・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くなならないうちに教科担任に質問して解決するようにする。 ・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章の章末問題が理解できるかどうかが1つの目安になる。 ・教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組むこと。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	・極限，微分法および積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1 0 %	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B．数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，極限，微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身につけている。	3 0 %	
C．数学的な技能	・極限，微分法および積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	3 0 %	
D．知識・理解	・極限，微分法および積分法における基本的な概念，原理・法則など体系的に理解し，知識を身につけている。	3 0 %	

【年間計画】

[illegible]

【基本情報】

教科	数 学	学 年	3 年	教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅲ（数研出版）
科目	数学Ⅲ（β）	単位数 （年間予定コマ数）	2 （156）	副教材	4 プロセス 数学Ⅲ（数研出版）
科目概要	・数学Ⅲは、数学Ⅱに続いて履修する科目である。数学Ⅲ（β）では、「平面上の曲線」・「複素数平面」について学習する。 ・将来、数学が必要な専門分野に進学する場合（特に理系大学進学）において必要となることが多い科目である。 ①関数 …分数関数、無理関数、逆関数や合成関数の考え方を理解する ②極限 …数列や関数に関する極限を理解する ③複素数平面 …座標平面上に複素数を対応させる。また、複素数の極形式やド・モアブルの定理について学習し活用する。 ④式と曲線 …放物線、楕円、双曲線などの平面上の曲線がいろいろな式で表されることを理解する。				
到達目標	・関数、極限、平面上の曲線や複素数についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能る能力を養い、それらを活用することを目標にする。 ・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付け様々な分野に応用できるようにする。 ・教科書の問、節末、章末問題を解けるようにする。				
授業の進め方	・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・単元が終了するときには教科書の章末問題にも取り組む。 ・教科書の「参考」「発展」も学習する。 ・進度によっては臨時に単元テストを実施する場合がある。				
留意事項	・教科書、問題集、ノートを忘れずに準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組むようにする。そのため、授業用のノートと問題集用のノートを別に用意するのが望ましい。				
家庭学習	・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例題・問を自力で解き直し、問題集の該当問題を解く。 ・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにする。 ・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くないうちに教科担任に質問して解決するようにする。 ・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章の章末問題が理解できるかどうか1つの目安になる。 ・教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組むこと。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・極限、関数、平面上の曲線と複素数平面に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1 0 %	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，極平面上の曲線と複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付けている。	3 0 %	
C. 数学的な技能	・平面上の曲線と複素数平面において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	3 0 %	
D. 知識・理解	・平面上の曲線と複素数平面における基本的な概念，原理・法則など体系的に理解し，知識を身に付けている。	3 0 %	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
① 関数	1 0	分数関数 無理関数 逆関数と合成関数 問題	○		○ ○ ○ ○	○ ○ ○	・分数関数や無理関数のグラフをかくことができる。また、各グラフの特徴を理解する。 ・逆関数，合成関数の意味を理解し，関数の逆関数や合成関数を求めることができる。また，関数の逆関数のグラフをかくことができる。
② 極限 1 節 数列の極限 2 節 関数の極限	3 0	数列の極限 無限等比数列 無限級数 問題 関数の極限（１）（２） 三角関数と極限 関数の連続性 問題	○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・数列の収束，発散および極限の基本的な性質について理解し，数列の極限を求めることができる。 ・無限等比数列が収束する条件を理解し，そのことを用いて数列の極限を調べることができる。 ・無限級数の和について理解し，求めることができる。 ・無限等比級数が収束する条件を理解し，その和を求めることができる。また，図形への応用や循環小数の考察を通して，その理解を深める。 ・様々な無限級数の収束，発散を調べることができる。 ・関数の極限の性質を理解する。また，指数関数・対数関数の極限を調べることができる。 ・三角関数の極限を調べることができる。 ・関数の連続性および中間値の定理について理解する。
③ 複素数平面	2 6	複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 複素数と図形 問題	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	○	・複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。 また，複素数平面上における複素数の和・差・実数倍とベクトルの和・差・実数倍の関係を理解する ・複素数の極形式を理解し，表すことができる。また，複素数の積・商と複素数平面上の回転移動の関係を理解する。 ・ド・モアブルの定理を理解する。また，ド・モアブルの定理を用いて解を求めることができる。さらに，その解を複素数平面上に図示することができる。 ・内分点や外分点，円，軌跡を複素数を用いて表現することができる。 ・偏角を用いることにより，複素数平面上の３点でできる角の大きさを表すことができることを理解する。 また，複素数平面上の三角形の形状を調べることができる。
④ 平面上の曲線 1 節 2次曲線 2 節 媒介変数表示と極座標	3 1	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質 問題 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式 コンピュータの利用 問題	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	・放物線，楕円，双曲線が二次式で表されることおよびそれらの2次曲線の基本的性質について理解する。 ・数学Ⅰの2次関数のグラフが放物線であることを確認する。 それによって，楕円，双曲線との関係が，離心率との考え方によって定まることを確認する。 ・媒介変数の意味および曲線が媒介変数を用いて表されることを理解し，それらを事象の考察へと活用する。 ・極座標の意味および曲線が極方程式で表されることを理解し，それらを事象の考察に活用する。
<発展的な内容>	5 9	・センター試験過去問題を用いた発展的な内容の演習					・発展的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。

【基本情報】

教科	数 学	学 年	3 年	教科書	
科 目	数学研究Ⅰ・Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	3 (156)	副教材	プラスノート 数学ⅠAⅡB受験型 2019大学入試センター試験対策 数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B上級演習 PLAN120 2020進研 [センター試験] 対策数学 重要問題演習 数学
科目概要	・1・2年次に学習した数学Ⅰ・Aについて、基礎の復習をする。 ・演習を通し、基礎的な内容にとどまらず、発展的な内容にも取り組む。 ・全体の問題演習が完了後、発展的な内容の定着に努める。				
到達目標	・基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・発展的な内容に対応できる力を養う。				
授業の進め方	・まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学ⅠAの基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・上記の問題集が終了後、大学入試センター試験対策問題集を用いて、発展的な内容の問題演習を行う。				
留意事項	・問題集・ノートなどを忘れずに、必要に応じて1・2年の次の教科書を準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。				
家庭学習	・原則として授業で解く問題は予習して、授業ではその確認ができるようにする。 ・授業があった日は、取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・1・2年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・たくさん問題集を買うのではなく、同じものを何度も解くことが大切。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・今まで学習した数学ⅠAに関心をもつと共に、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，今まで学習した数学ⅠAにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・今まで学習した数学ⅠAにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・今まで学習した数学ⅡBにおける基本的な概念，原理，法則などを体系的に理解し知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
<数学Ⅰ> 数と式 2次関数 図形と計量 データの分析	37	・整式の計算（展開・因数分解・有理化等） ・方程式（絶対値を含む） ・2次関数のグラフ ・グラフと方程式および不等式の関係 ・最大値と最小値 ・三角比の基本 ・正弦定理・余弦定理 ・三角形や四角形への応用 ・代表値・箱ひげ図・分散と標準偏差 ・相関係数			○	○	・1・2年次で学習した内容を確認しつつ，入試問題演習を交えながら，総合問題に取り組む。
<数学A> 集合と論証 場合の数と確率 図形と計量 データの分析	20	・集合と要素の個数 ・命題と論証 ・順列，組合せ，二項定理 ・確率，期待値 ・三角比の基本 ・正弦定理・余弦定理 ・三角形や四角形への応用 ・代表値と箱ひげ図・分散と標準偏差 ・相関係数	○ ○		○		・同上
<大学入試センター 試験対策> 数学Ⅰ・A	66	・大学入学共通テスト（新テスト）に対応した問題を中心とした演習	○		○		・基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。
<大学入試センター 試験特別授業>	33	・大学入学共通テスト（新テスト）に対応した発展的な内容の演習	○		○		・同上

【基本情報】

教科	数 学	学 年	3 年	教科書	
科 目	発展数学Ⅰ・Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	2 + 2 (156)	副教材	プラスノート 数学Ⅰ A Ⅱ B 受験型 2 0 1 9 大学入試センター試験対策 数学 Ⅰ・A + Ⅱ・B 上級演習 P L A N 1 2 0 2 0 2 0 進研 [センター試験] 対策数学 重要問題演習 数学
科 目 概 要	・ 1 ・ 2 年次に学習した数学Ⅱ・B の内容について，基礎の復習をする。 ・ 復習と同時に受験問題レベルの問題演習を行う。 ・ 全体の問題演習が完了してから，発展的な内容の定着に努める。				
到 達 目 標	・ 基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・ 発展的な内容に対応できる力を養う。				
授業の進め方	・ まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学Ⅱ B の基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・ 上記の問題集が終了後，大学入試センター試験対策問題集を用いて，発展的な内容の問題演習を行う。				
留 意 事 項	・ 問題集・ノートなどを忘れずに，必要に応じて 1 ・ 2 年の次の教科書を準備する。 ・ 指示された問題を早く解き終わった場合には，自主的に問題集などに取り組む。				
家 庭 学 習	・ 原則として授業で解く問題は予習して，授業ではその確認ができるようにする。 ・ 授業があった日は，取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・ 1 ・ 2 年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・ たくさん問題集を買うのではなく，同じものを何度も解くことが大切。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	・ 今まで学習した数学Ⅱ B に関心をもつと共に，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1 0 %	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B．数学的な見方考え方	・ 事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，今まで学習した数学Ⅱ B における数学的な見方や考え方を身に付けている。	3 0 %	
C．数学的な技能	・ 今まで学習した数学Ⅱ B において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	3 0 %	
D．知識・理解	・ 今まで学習した数学Ⅱ B における基本的な概念，原理，法則などを体系的に理解し知識を身に付けている。，	3 0 %	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜数学Ⅱ＞ 式の計算と方程式 式と証明	1 8	・ 整式の除法と分数式，式の証明 ・ 剰余の定理，因数定理 ・ 複素数，高次方程式	○	○ ○ ○		○	・ 1 ・ 2 年次で学習した内容を確認しつつ，入試問題演習を交えながら，総合問題に取り組む。
図形と方程式	1 6	・ 点と直線 ・ 円と直線 ・ 軌跡と領域	○		○ ○ ○		・ 同上
三角関数	1 6	・ 一般角，弧度法 三角関数の相互関係 ・ 加法定理，2 倍角，半角，合成	○ ○		○ ○	○	・ 同上
指数・対数関数	1 6	・ 指数関数，対数関数	○		○		・ 同上
微分法・積分法	2 0	・ 微分の計算，接線の方程式 ・ 関数の増減と方程式への応用 ・ 不定積分，定積分と面積	○	○ ○ ○	○	○	・ 同上
＜数学B＞ ベクトル 数列	2 0 2 0	・ ベクトルの和・差・成分・内積 ・ 位置ベクトルと図形 ・ 空間のベクトル ・ 等差数列，等比数列 ・ 階差数列，その他の数列 ・ 漸化式，数学的帰納法		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	・ 同上
＜大学入試センター 試験対策＞ 数学Ⅱ・B	1 5	・ 大学入学共通テスト（新テスト）に 対応した発展的な内容の演習	○		○		・ 基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。
＜大学入試センター 試験特別授業＞	1 5	・ 大学入学共通テスト（新テスト）に 対応した発展的な内容の演習	○		○		・ 同上

【基本情報】

教科	理数	学年	3年	教科書	
科目	SS数学Ⅲ（Ⅰ・Ⅱ）	単位数 （年間予定コマ数）	3 （156）	副教材	プラスノート 数学ⅠⅡⅢ受験型 2019大学入試センター試験対策 数学Ⅰ・Ⅱ＋Ⅲ・Ⅳ上級演習 PLAN120 2020進研 [センター試験] 対策数学 重要問題演習 数学
科目概要	・1・2年次に学習した数学Ⅰ・Ⅱについて、基礎の復習をする。 ・演習を通し、基礎的な内容にとどまらず、発展的な内容にも取り組む。 ・全体の問題演習が完了後、発展的な内容の定着に努める。				
到達目標	・基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・発展的な内容に対応できる力を養う。				
授業の進め方	・まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学ⅠⅡの基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・上記の問題集が終了後、大学入試センター試験対策問題集を用いて、発展的な内容の問題演習を行う。				
留意事項	・問題集・ノートなどを忘れずに、必要に応じて1・2年の次の教科書を準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。				
家庭学習	・原則として授業で解く問題は予習して、授業ではその確認ができるようにする。 ・授業があった日は、取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・1・2年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・たくさん問題集を買うのではなく、同じものを何度も解くことが大切。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	・今まで学習した数学ⅠⅡに関心をもつと共に、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B. 数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、今まで学習した数学ⅠⅡにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C. 数学的な技能	・今まで学習した数学ⅠⅡにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D. 知識・理解	・今まで学習した数学Ⅲにおける基本的な概念，原理，法則などを体系的に理解し知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜数学Ⅰ＞ 数と式 2次関数 図形と計量 データの分析	37	・整式の計算（展開・因数分解・有理化等） ・方程式（絶対値を含む） ・2次関数のグラフ ・グラフと方程式および不等式の関係 ・最大値と最小値 ・三角比の基本 ・正弦定理・余弦定理 ・三角形や四角形への応用 ・代表値・箱ひげ図・分散と標準偏差 ・相関係数			○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	・1・2年次で学習した内容を確認しつつ，入試問題演習を交えながら，総合問題に取り組む。
＜数学A＞ 集合と論証 場合の数と確率 図形と計量 データの分析	20	・集合と要素の個数 ・命題と論証 ・順列，組合せ，二項定理 ・確率，期待値 ・三角比の基本 ・正弦定理・余弦定理 ・三角形や四角形への応用 ・代表値と箱ひげ図・分散と標準偏差 ・相関係数	○ ○		○ ○ ○ ○		・同上
＜大学入試センター 試験対策＞ 数学Ⅰ・A	66	・大学入学共通テスト（新テスト）に対応した問題を中心とした演習	○		○		・基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。
＜大学入試センター 試験特別授業＞	33	・大学入学共通テスト（新テスト）に対応した発展的な内容の演習	○		○		・同上

【基本情報】

教科	理数	学年	3年	教科書	
科目	SS数学Ⅲ（Ⅱ・B）	単位数 (年間予定コマ数)	3 (156)	副教材	プラスノート 数学ⅠAⅡB受験型 2019大学入試センター試験対策 数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B上級演習 PLAN120 2020進研 [センター試験] 対策数学 重要問題演習 数学
科目概要	・1・2年次に学習した数学Ⅱ・Bの内容について，基礎の復習をする。 ・復習と同時に受験問題レベルの問題演習を行う。 ・全体の問題演習が完了してから，発展的な内容の定着に努める。				
到達目標	・基本的内容を徹底的に復習して習得する。 ・発展的な内容に対応できる力を養う。				
授業の進め方	・まず問題演習を用いて問題演習・解説をしながら数学ⅡBの基本問題の復習をおよび記述試験の解答の仕方などを学習する。 ・上記の問題集が終了後，大学入試センター試験対策問題集を用いて，発展的な内容の問題演習を行う。				
留意事項	・問題集・ノートなどを忘れずに，必要に応じて1・2年の次の教科書を準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には，自主的に問題集などに取り組む。				
家庭学習	・原則として授業で解く問題は予習して，授業ではその確認ができるようにする。 ・授業があった日は，取り組んだ問題を再度解いてみる必要がある。 ・1・2年次に購入した問題集なども用いて適宜演習を行う。 ・たくさん問題集を買うのではなく，同じものを何度も解くことが大切。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	・今まで学習した数学ⅡBに関心をもつと共に，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	10%	1 定期考査・単元テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B．数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，今まで学習した数学ⅡBにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	30%	
C．数学的な技能	・今まで学習した数学ⅡBにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30%	
D．知識・理解	・今まで学習した数学ⅡBにおける基本的な概念，原理，法則などを体系的に理解し知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜数学Ⅱ＞ 式の計算と方程式 式と証明	1 8	・ 整式の除法と分数式，式の証明 ・ 剰余の定理，因数定理 ・ 複素数，高次方程式	○	○ ○ ○		○	・ 1・2年次で学習した内容を確認しつつ，入試問題演習を交えながら，総合問題に取り組む。
図形と方程式	1 6	・ 点と直線 ・ 円と直線 ・ 軌跡と領域	○		○ ○ ○		・ 同上
三角関数	1 6	・ 一般角，弧度法 三角関数の相互関係 ・ 加法定理，2倍角，半角，合成	○ ○		○ ○	○	・ 同上
指数・対数関数	1 6	・ 指数関数，対数関数	○		○		・ 同上
微分法・積分法	2 0	・ 微分の計算，接線の方程式 ・ 関数の増減と方程式への応用 ・ 不定積分，定積分と面積	○	○ ○ ○	○	○	・ 同上
＜数学B＞ ベクトル 数列	2 0 2 0	・ ベクトルの和・差・成分・内積 ・ 位置ベクトルと図形 ・ 空間のベクトル ・ 等差数列，等比数列 ・ 階差数列，その他の数列 ・ 漸化式，数学的帰納法		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	・ 同上
＜大学入試センター 試験対策＞ 数学Ⅱ・B	1 5	・ 大学入学共通テスト（新テスト）に 対応した発展的な内容の演習	○		○		・ 基礎的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。
＜大学入試センター 試験特別授業＞	1 5	・ 大学入学共通テスト（新テスト）に 対応した発展的な内容の演習	○		○		・ 同上

【基本情報】

教科	理数	学年	3年	教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅲ（数研出版）
科目	S S 数学Ⅲ（Ⅲα）	単位数 （年間予定コマ数）	4 （156）	副教材	4 プロセス 数学Ⅲ（数研出版）
科目概要	・数学Ⅲは、数学Ⅱに続いて履修する科目である。2年次で学習する「微分・積分」について、より深く学習する。将来、数学が必要な専門分野に進学する場合（特に理系大学進学）において必要となることが多い科目である。 ①微分法 …あらゆる関数の導関数を求める。 ②微分法の応用 …微分の計算をもとに、さまざまな関数のグラフを書いたり、方程式・不等式へ応用する。 ③積分法とその応用…あらゆる関数の積分計算を行う。また、面積や体積、曲線の長さを求める。				
到達目標	・微分法・積分法についての理解を深め、知識の習得の状態と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養い、それらを活用することを目標とする。 ・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付けさまざまな分野に応用できるようにする。 ・教科書の問、節末・章末問題を解けるようにする。				
授業の進め方	・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・単元が終了するときには教科書の章末問題にも取り組む。 ・教科書の「発展」「節末問題」も学習する。 ・進度によっては臨時に単元テスト・節末テストを定期的の実施する場合がある。				
留意事項	・教科書・問題集・ノートを忘れずに準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組む。そのため、授業用のノートと問題集用のノートを別に用意するのが望ましい。				
家庭学習	・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例題・問を自力で解き直し、問題集の該当問題を解く。 ・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにする。 ・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くなならないうちに教科担任に質問して解決するようにする。 ・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章の章末問題が理解できるかどうかが1つの目安になる。 ・教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組むこと。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	・極限，微分法および積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1 0 %	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B．数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，極限，微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身につけている。	3 0 %	
C．数学的な技能	・極限，微分法および積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	3 0 %	
D．知識・理解	・極限，微分法および積分法における基本的な概念，原理・法則など体系的に理解し，知識を身につけている。	3 0 %	

【年間計画】

[illegible]

【基本情報】

教科	理数	学年	3年	教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅲ（数研出版）
科目	S S 数学Ⅲ（β）	単位数 （年間予定コマ数）	2 （156）	副教材	4 プロセス 数学Ⅲ（数研出版）
科目概要	・数学Ⅲは、数学Ⅱに続いて履修する科目である。数学Ⅲ（β）では、「平面上の曲線」・「複素数平面」について学習する。 ・将来、数学が必要な専門分野に進学する場合（特に理系大学進学）において必要となることが多い科目である。 ①関数 …分数関数、無理関数、逆関数や合成関数の考え方を理解する ②極限 …数列や関数に関する極限を理解する ③複素数平面 …座標平面上に複素数を対応させる。また、複素数の極形式やド・モアブルの定理について学習し活用する。 ④式と曲線 …放物線、楕円、双曲線などの平面上の曲線がいろいろな式で表されることを理解する。				
到達目標	・関数、極限、平面上の曲線や複素数についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能る能力を養い、それらを活用することを目標にする。 ・重要な定理や公式を理解するとともに、基本的な計算を身に付け様々な分野に応用できるようにする。 ・教科書の問、節末、章末問題を解けるようにする。				
授業の進め方	・基本的には教科書に沿って進め、状況に応じて傍用問題集での問題演習を取り入れる。 ・単元が終了するときには教科書の章末問題にも取り組む。 ・教科書の「参考」「発展」も学習する。 ・進度によっては臨時に単元テストを実施する場合がある。				
留意事項	・教科書、問題集、ノートを忘れずに準備する。 ・指示された問題を早く解き終わった場合には、自主的に問題集などに取り組むようにする。そのため、授業用のノートと問題集用のノートを別に用意するのが望ましい。				
家庭学習	・復習が中心となる。授業はほぼ毎日あるため、その日の授業で取り組んだ例題・問を自力で解き直し、問題集の該当問題を解く。 ・週末にはその週に学習した内容についてあらためて復習し、疑問点が残らないようにする。 ・不明な点が残ってしまった場合には、量が多くないうちに教科担任に質問して解決するようにする。 ・大学等進学を目指し家庭学習をする場合、各章の章末問題が理解できるかどうか1つの目安になる。 ・教科書や問題集の基礎・基本を確実に身に付け、その考え方を十分に活用し章末問題にもチャレンジしよう。考える力が試されるため、じっくり取り組むこと。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	・極限、関数、平面上の曲線と複素数平面に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	1 0 %	1 定期考査・節末テストの得点 2 ノート・課題提出とその仕上げ具合 3 授業態度（関心・意欲） それらを総合的に評価する。
B．数学的な見方考え方	・事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，極平面上の曲線と複素数平面における数学的な見方や考え方を身に付けている。	3 0 %	
C．数学的な技能	・平面上の曲線と複素数平面において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	3 0 %	
D．知識・理解	・平面上の曲線と複素数平面における基本的な概念，原理・法則など体系的に理解し，知識を身に付けている。	3 0 %	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
① 関数	1 0	分数関数 無理関数 逆関数と合成関数 問題	○		○ ○ ○ ○	○ ○ ○	・分数関数や無理関数のグラフをかくことができる。また、各グラフの特徴を理解する。 ・逆関数，合成関数の意味を理解し，関数の逆関数や合成関数を求めることができる。また，関数の逆関数のグラフをかくことができる。
② 極限 1 節 数列の極限 2 節 関数の極限	3 0	数列の極限 無限等比数列 無限級数 問題 関数の極限（１）（２） 三角関数と極限 関数の連続性 問題	○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・数列の収束，発散および極限の基本的な性質について理解し，数列の極限を求めることができる。 ・無限等比数列が収束する条件を理解し，そのことを用いて数列の極限を調べることができる。 ・無限級数の和について理解し，求めることができる。 ・無限等比級数が収束する条件を理解し，その和を求めることができる。また，図形への応用や循環小数の考察を通して，その理解を深める。 ・様々な無限級数の収束，発散を調べることができる。 ・関数の極限の性質を理解する。また，指数関数・対数関数の極限を調べることができる。 ・三角関数の極限を調べることができる。 ・関数の連続性および中間値の定理について理解する。
③ 複素数平面	2 6	複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 複素数と図形 問題	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	○	・複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。 また，複素数平面上における複素数の和・差・実数倍とベクトルの和・差・実数倍の関係を理解する ・複素数の極形式を理解し，表すことができる。また，複素数の積・商と複素数平面上の回転移動の関係を理解する。 ・ド・モアブルの定理を理解する。また，ド・モアブルの定理を用いて解を求めることができる。さらに，その解を複素数平面上に図示することができる。 ・内分点や外分点，円，軌跡を複素数を用いて表現することができる。 ・偏角を用いることにより，複素数平面上の３点でできる角の大きさを表すことができることを理解する。 また，複素数平面上の三角形の形状を調べることができる。
④ 平面上の曲線 1 節 2次曲線 2 節 媒介変数表示と極座標	3 1	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質 問題 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式 コンピュータの利用 問題	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	・放物線，楕円，双曲線が二次式で表されることおよびそれらの2次曲線の基本的性質について理解する。 ・数学Ⅰの2次関数のグラフが放物線であることを確認する。 それによって，楕円，双曲線との関係が，離心率との考え方によって定まることを確認する。 ・媒介変数の意味および曲線が媒介変数を用いて表されることを理解し，それらを事象の考察へと活用する。 ・極座標の意味および曲線が極方程式で表されることを理解し，それらを事象の考察に活用する。
<発展的な内容>	5 9	・センター試験過去問題を用いた発展的な内容の演習					・発展的な内容の定着の元に発展的な内容の定着を図る。

【基本情報】

教科	理科	学年	3年	教科書	改訂版 物 理（数研出版）
科目	物 理	単位数 (年間予定コマ数)	3 (156)	副教材	リードα 物理基礎・物理（数研出版編集部）
科目概要	1．平面運動，運動量，円運動，万有引力，気体分子の運動など様々な物体の運動 2．水面波・音・光などの波動現象 3．電気や磁気に関する現象 4．電子・原子および原子核に関する現象				
到達目標	1．力と運動に関する概念・原理・法則を系統的に理解し，活動できるようになる。 2．波動現象の基本的な概念・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 3．電気と磁気に関する基本的な概念・原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 4．原子についての基本的な概念・原理・法則が理解できる。				
授業の進め方	・基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。 ・問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。 ・実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。				
留意事項	・授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること ・実験には，積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。 ・基礎的事項について，適宜小テストを実施します。				
家庭学習	・復習を中心に家庭学習をすることを推奨します。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A．関心・意欲・態度	物理学的現象に関心・探求心を持てているか。	2 0 %	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート，小テスト，定期考査など，随時観点別項目を設定し評価する。
B．思考・判断・表現	物理学的現象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	3 0 %	
C．観察・実験の技能	観察・実験において，器具機材の基本的操作を身に付け，結果を記録・整理できているか。	1 0 %	
D．知識・理解	物理学的現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，その知識が身についたか。	4 0 %	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第3編 波							
第1章 波の伝わり方	1 2	正弦波，波の伝わり方	○			○	・正弦波の表し方について理解できる。
第2章 音の伝わり方	1 2	音の伝わり方，ドップラー効果	○			○	・音のドップラー効果について理解できる。
第3章 光	1 2	光の性質	○			○	・光の伝わり方について理解すること。
		●実験 ガラスの屈折率の測定		○	○		
		レンズ	○			○	
		●実験 凸レンズの焦点距離の測定		○	○		
		光の干渉と回折	○			○	・ヤングの実験，回折格子に理解できる。
		●観察 回折格子による光の干渉		○	○		
第4編 電気と磁気							
第1章 電場	1 2	静電気力，電場，電位	○			○	・クーロンの法則，電場と電位の関係を理解できる。
		●実験 等電位線の測定		○	○		
		物質と電場，コンデンサー	○			○	・コンデンサーの性質を理解できる。
第2章 電流	1 2	オームの法則，直流回路，半導体	○			○	・電流回路について理解できる。
第3章 電流と磁場	1 2	磁場，電流のつくる磁場	○			○	・電流がつくる磁界の様子を理解できる。
		電流が磁場から受ける力	○			○	・電流と磁場の相互作用について理解できる。
		●実験 クリップモーターの製作		○	○		
		ローレンツ力	○			○	
第4章 電磁誘導と電磁波	1 2	電磁誘導の法則	○			○	・電磁誘導について理解できる。
		交流の発生	○			○	
		自己誘導と相互誘導	○			○	
		交流回路，電磁波	○			○	・電磁波の性質と利用について理解できる。
第5編 原子							
第1章 電子と光	1 2	電子，光の粒子性，X線	○			○	・電子の発見の歴史について理解できる。
		粒子の波動性	○			○	・粒子性と波動性について理解できる。
第2章 原子と原子核	1 4	原子の構造とエネルギー準位	○			○	・原子の構造とエネルギー準位について理解できる。
		原子核，放射線とその性質	○			○	
		核反応と核エネルギー	○			○	・核反応について理解できる。
		素粒子	○			○	・素粒子の存在について理解できる。
		物理学が築く未来	○			○	・科学技術が社会の基盤となっていることを理解できる。
センター試験対策	1 6	過去問や予想問題の演習	○			○	・センター試験で7割以上の得点を目標にする。
(家庭学習期間)	3 0						

【基本情報】

教科	理科	学年	3年	教科書	改訂版 生物（数研出版）
科目	生物	単位数 (年間予定コマ数)	4 (156)	副教材	セミナー生物（第一学習社）
科目概要	第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答 第4編 生物と環境 第7章 生物群集と生態系 第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 第9章 生物の系統				
到達目標	・生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解できるようになる。 ・生物の個体群と群集及び生態系の構造や変化の仕組みを理解することにより、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。 ・生物界の多様性と系統を理解することにより、進化についての考え方を身に付ける。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値55以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノート等に写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナー（問題集）は併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自で解くようにすること。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心を持ち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	20%	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	30%	
C. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	20%	
D. 知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第5章 動物の反応と行動							
1 ニューロンとその興奮	7	ニューロンについて	○	○		○	外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを理解する。 刺激に対する反応としての動物の行動について理解する。
2 刺激の受容	6	刺激の受容について	○	○	○	○	
3 情報の統合	6	神経系について	○	○		○	
4 刺激への反応	9	効果器について	○	○		○	
5 動物の行動	9	生得的な行動、学習による行動について	○	○	○	○	
第6章 植物の環境応答							
1 植物の生活と環境応答	5	屈性と傾性について	○	○		○	植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。
2 発芽の調節	8	発芽の調節について	○	○		○	
3 成長の調節	8	成長の調節について	○	○		○	
4 環境の変化に対する応答	8	植物ホルモンについて 刺激の受容と反応について	○	○		○	
5 花芽形成・結実の調節	8	植物の光に対する応答と花芽形成について	○	○		○	
第7章 生物群集と生態系							
1 個体群	7	個体群について	○	○		○	個体群とその変動について理解する。 生物群集の成り立ちについて理解する。 生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。 生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
2 個体群内の個体間の関係	5	個体群内の関係について	○	○		○	
3 異種個体群間の関係	5	異種個体群間の関係について	○	○		○	
4 生物群集	5	生態系について	○	○		○	
5 生態系における物質生産	6	生態系の物質生産について	○	○		○	
6 生態系と生物多様性	5	生態系と生物多様性について	○	○		○	
第8章 生命の起源と進化							
1 生命の起源と初期の生物の変遷	6	生命の起源と生物の変遷について	○	○		○	生命の起源と生物進化の道筋について理解する。
2 多細胞生物の変遷	6		○	○		○	
3 進化のしくみ	8	進化の仕組みについて	○	○		○	
第9章 生物の進化							
1 生物の系統	5	生物の系統について	○	○		○	生物はその系統に基づいて分類できることを理解する
2 生物の多様性	8	生物の分類について	○	○		○	
センター試験対策 (家庭学習期間)	16	過去問や予想問題の演習					

【基本情報】

教科	理科	学年	3年	教科書	
科目	ベーシック物理 α	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	物理基礎（数研出版） チェック＆演習物理基礎（数研出版）
科目概要	・ 日常に起こる物体の運動や様々な物理現象を観察，実験などを通して探究し，その基本的な概念や法則を理解し，物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身に付ける。				
到達目標	1. 運動とエネルギーに関する法則を系統的に理解し，日常の物理現象を考察できるようになる。 2. 波動現象の基本的な法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 3. 電気に関する原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 4. 全国模試での偏差値55を目標に学習を進めることができる。				
授業の進め方	・ 基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・ 実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。 ・ 問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。 ・ 実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。				
留意事項	・ 授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること ・ 実験には，積極的参加し，班で行う場合は，班員と協力して進めて行く。 ・ 忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は，事前に申し出ること。 ・ 授業中質問をするので，説明をよく聞き，積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を守ること。 ・ 基礎的事項について，適宜小テストを実施します。				
家庭学習	・ 復習を中心に家庭学習をすることを推奨します。				
備考	・ 評価については，下記の4観点を総合して5段階でつける。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	生活との関連を意識し日常の物理現象について関心をもち，意欲的に探究しようとするとともに，科学的な見方や考え方を身につけているか。	20%	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B. 思考・判断・表現	日常の物理現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	30%	
C. 観察・実験の技能	物理現象に関する観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録・整理し，物理現象を科学的に探究する技能を身につけているか。	20%	
D. 知識・理解	学習した基本的な概念・原理・法則を整理し，日常の物理現象と関連づける知識を身につけているか。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
【3年前期ベーシックα】							
第1編 運動とエネルギー							
第1章 運動の表し方	6	速度，加速度 落体の運動		○		○	・物体の運動の表し方について，理解できる。 ・物体の加速度について理解できる。
第2章 運動の法則	7	力とそのはたらき 力のつりあい 運動の法則 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力		○		○	・物体にはたらく力のつりあいが理解できる。 ・運動の三法則が理解できる。 ・摩擦力が理解できる。 ・圧力，浮力が理解できる。
第3章 仕事と力学的エネルギー	7	仕事 運動エネルギー，位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	○			○	・力学的エネルギー保存則が理解できる。
第2編 熱							
第1章 熱とエネルギー	7	熱と熱量 熱と物質の状態 熱と仕事 不可逆変化と熱機関	○			○	・熱，熱平衡，熱量，熱と仕事の変換について理解できる。
第3編 波							
第1章 波の性質	6	波と媒質の運動 波の伝わり方	○			○	・波の諸要素，諸性質について理解できる。
第2章 音	6	音の性質 発音体の振動と共振・共鳴		○		○	・音波の諸性質について理解できる。

【基本情報】

教科	理科	学年	3年	教科書	
科目	ベーシック化学 α	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	化学基礎（啓林館） W I N S T E P 化学基礎（進研） チェック&演習 化学基礎
科目概要	・自然の事物・現象について観察、実験などを行うことを通して、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
到達目標	・化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 ・原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 ・化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。 ・物質の状態変化、平衡および溶液の性質について理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・探究活動を行い学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、化学基礎の内容にある発展的な内容を学習する。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていく。				
留意事項	・毎時間、教科書・ノート を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、基本的に理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて行うので、必ず学習してくること。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解くこと。 ・実験書を基に、実験前の予習を行い、実験後については結果の整理や考察などをまとめる。				
備考	・学期末・学年末の評価については、下記の４観点を１００点法で換算し、５段階でつける。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質と その変化について関心をもち、意欲的に探究 しようとするとともに、科学的な見方や考え 方を身につけている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験 問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B. 思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究 する過程を通して、事象を科学的に考察し、 導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
C. 観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験などを 行い、基本操作を習得するとともに、それらの 過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事 物・現象を科学的に探究する技能を身につけ ている。	２０％	
D. 知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原 理・法則を整理し、知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
【3年前期ベーシックα】							
＜第1部 化学と人間生活＞							
第1章 化学と私達の生活	4	酸化銅（Ⅱ）の還元	○	○			・酸化銅（Ⅱ）が金属の銅に変わったことが確認できる。
	4	洗剤の濃度	○	○			・目的に応じて適切な洗剤の濃度があることが理解できる。
第2章 物質の状態	4	ろ過と再結晶による物質の分離・精製			○		・混合物と純物質の違いと分離を考えることができる。
	4	炎色反応	○	○			・炎色反応により含まれる金属イオンを調べることができる。
	4	物質の三態					・物質の三態と熱の関係、物質の変化と絶対温度について考えることができる。
	4	いろいろなプラスチックと金属	○		○		・いろいろなプラスチックやアルミニウムの性質を調べることができる。
＜第2部 物質の構成＞							
第1章 物質の構成粒子	3	電子殻の発見（スペクトル）	○	○			・原子の構造と電子配置について考えることができる。
	2	簡易分光器の製作			○		・簡易分光器を製作し、観察することができる。
第2章 化学結合	4	イオン結晶の性質	○	○			・イオン結晶は陽イオンと陰イオンが静電的な引力で規則正しく結合していることが理解できる。
	3	電子の軌道と分子の形 分子間力に働く力	○	○			・共有結合と混成軌道の関係を理解できる。 ・ファンデルワールス力、水素結合などの分子間力を理解できる。また、水の特性を理解できる。
	3	化学結合と物質の性質	○	○			・構成している原子の種類で物質の性質が決まることが理解できる。

【基本情報】

教科	理科	学年	3年	教科書	
科目	ベーシック生物α	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	リードα 生物基礎（数研出版）
科目概要	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き 第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 バイオームの多様性と分布 第5章 生態系とその保全				
到達目標	・細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を学ぶことにより、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。 ・生物には体内環境を維持する仕組みがあることを学ぶことにより、体内環境の維持と健康との関係について理解できるようになる。 ・生態系の成り立ちを学ぶことにより、その保全の重要性を理解できるようになる。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値55以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノートに写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナーは併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自家庭で解くようにすること。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身につけている。	20%	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	30%	
C. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	20%	
D. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第 1 章 生物の特徴							
1 生物の多様性と共通性	5	生物の多様性と共通性、生物の基本的な特徴、細胞について	○		○		生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解する。
2 細胞とエネルギー	8	生命活動とエネルギー、代謝と酵素について 光合成、呼吸について		○	○		
			○			○	
2 細胞とエネルギー	2	光合成、呼吸について	○	○			遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。次に転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について理解する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて理解する。
第 2 章 遺伝子とそのはたらき							
1 遺伝現象と遺伝子	5	遺伝情報を担う物質 DNA、DNA の構造について	○			○	
2 遺伝情報の複製と分配	7	細胞分裂と遺伝情報の分配について	○	○			
3 遺伝情報とタンパク質の合成	7	遺伝情報とタンパク質、RNA のはたらき、タンパク質の合成について			○	○	
3 遺伝情報とタンパク質の合成	2	染色体と DNA の遺伝情報、DNA の遺伝情報と遺伝子、ゲノムについて	○	○			

【基本情報】

教 科	理 科	学 年	3 年	教科書	
科 目	ベーシック地学α	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	地学基礎（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店） チェック＆演習 地学基礎（数研出版）
科 目 概 要	地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則について、身近な自然現象との関連を図りながら学習する。地学的な探究活動を通して、科学的な見方や考え方を身につける。				
到 達 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、地学的に探究する能力と態度を身につける。地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。大学入試センター試験「地学基礎」に対応するために必要とされる知識や思考力を身につける。				
授業の進め方	・教科書・図表を基にした講義を中心に授業を進める。 ・学習内容に関わる探究活動を行うことで、知識や理解の定着を図る。				
留 意 事 項	・教科書・副教材（図表・問題集）・ノート・ワークシート等を綴じるファイルを持ってくること。 ・グループで実習を行う際には、積極的参加しメンバーと協力すること。 ・忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・講義に対して、質問するなどの積極的な姿勢を歓迎する。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。				
家 庭 学 習	・家庭学習において、履修した内容について教科書や副教材の問題演習を通して必ず復習すること。				
備 考	・評定については、下記の４観点を総合して５段階でつける。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物や自然現象の概念について科学的な見方や考え方でとらえようとする。	20%	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
B. 思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物や自然現象に対して、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	30%	
C. 技能	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	20%	
D. 知識・理解	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1部 固体地球とその変動							
第1章 地球	6	・地球の概観およびその内部構造についての理解を深める。	○	○	○		・地球の形状や大きさ、その具体的な測定方法と原理を理解し、活用できる。
第2章 活動する地球	6	・地震や火山活動，火成岩の形成についての理解を深め、プレートテクトニクスと関連づけて考察する。	○	○	○	○	・プレートの分布と運動と大地形の形成について関連づけて理解する。 ・地震、火山、造山運動などの地殻変動のしくみを理解し、プレート運動との関連づけて考察できる。
第2部 移り変わる地球							
第1章 地球史の読み方	6	・堆積岩や変成岩の形成や、地層と地質構造の形成について学び，地球の歴史と関連づけて考察する。	○		○	○	・風化作用，流水の作用と地表の変化のしくみと、堆積岩の形成と分類について、関連づけて理解する。
第2章 地球生命の進化	6	・古生物の変遷と地球環境の変化を関連づけて考察する。	○	○		○	・地質構造（地層、断層、不整合等）の特徴と成因を理解し、地質構造と化石から生命や環境の変化を考察する。 ・地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解し、古生物の変遷と地球環境の変化を関連づけて考察できる。
第3部 大気と海洋							
第1章 大気の構造	5	・水と気象の関係についての理解を深める。	○		○		・水の状態変化と気象現象を関連づけて理解する。
第2章 太陽放射と大気・海水の運動	5	・地球全体のエネルギー収支について，大気の大循環や海水の循環と関連づけて考察する。	○	○		○	・大気・海洋の構造と大循環、また地球規模の熱の輸送について理解し、地球全体の熱収支と関連づけて考察できる。
第3章 日本で見られる季節の気象	5	・日本で見られる冬から春，夏から秋への季節の気象について、理解を深める。	○		○	○	・日本で見られる冬から春の気象について理解し、身近な気象現象と関連づけて理解する。

【基本情報】

教科	理科	学年	3年	教科書	
科目	ベーシック物理β	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	物理基礎（数研出版） チェック＆演習物理基礎（数研出版）
科目概要	・ 日常に起こる物体の運動や様々な物理現象を観察，実験などを通して探究し，その基本的な概念や法則を理解し，物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身に付ける。				
到達目標	1. 運動とエネルギーに関する法則を系統的に理解し，日常の物理現象を考察できるようになる。 2. 波動現象の基本的な法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 3. 電気に関する原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 4. 全国模試での偏差値55を目標に学習を進めることができる。				
授業の進め方	・ 基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・ 実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。 ・ 問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。 ・ 実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。				
留意事項	・ 授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること ・ 実験には，積極的参加し，班で行う場合は，班員と協力して進めて行く。 ・ 忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は，事前に申し出ること。 ・ 授業中質問をするので，説明をよく聞き，積極的に授業に参加すること。 ・ 提出物の期限を守ること。 ・ 基礎的事項について，適宜小テストを実施します。				
家庭学習	・ 復習を中心に家庭学習をすることを推奨します。				
備考	・ 評価については，下記の4観点を総合して5段階でつける。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	生活との関連を意識し日常の物理現象について関心をもち，意欲的に探究しようとするとともに，科学的な見方や考え方を身につけているか。	20%	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B. 思考・判断・表現	日常の物理現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	30%	
C. 観察・実験の技能	物理現象に関する観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録・整理し，物理現象を科学的に探究する技能を身につけているか。	20%	
D. 知識・理解	学習した基本的な概念・原理・法則を整理し，日常の物理現象と関連づける知識を身につけているか。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
【3年後期ベーシックβ】 第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗	13	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー			○	○	・物質の電氣的性質について理解できる。
第2章 交流と電磁波	13	交流 電磁波	○	○		○	
センター試験対策策 (家庭学習期間)	13					○	

【基本情報】

教科	理科	学年	3年	教科書	
科目	ベーシック化学 β	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	化学基礎（啓林館） W I N S T E P 化学基礎（進研） チェック&演習 化学基礎
科目概要	・自然の事物・現象について観察、実験などを行うことを通して、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
到達目標	・化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 ・原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 ・化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。 ・物質の状態変化、平衡および溶液の性質について理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・探究活動を行い学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。				
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、化学基礎の内容にある発展的な内容を学習する。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていく。				
留意事項	・毎時間、教科書・ノート を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、基本的に理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて行うので、必ず学習してくること。				
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解くこと。 ・実験書を基に、実験前の予習を行い、実験後については結果の整理や考察などをまとめる。				
備考	・学期末・学年末の評価については、下記の4観点を100点法で換算し、5段階でつける。				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質と その変化について関心をもち、意欲的に探究 しようとするとともに、科学的な見方や考え 方を身につけている。	20%	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験 問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B. 思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究 する過程を通して、事象を科学的に考察し、 導き出した考えを的確に表現している。	30%	
C. 観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験などを 行い、基本操作を習得するとともに、それらの 過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事 物・現象を科学的に探究する技能を身につけ ている。	20%	
D. 知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原 理・法則を整理し、知識を身につけている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
【3年後期ベーシックβ】 ＜第3部 物質の変化＞							
第1章 物質と化学反応式	4	化学変化の量的関係	○	○			・ 化学反応式の係数から、一定量の気体の発生に必要な物質の物質量を計算し検証できる。 ・ 物質の量や化学変化での量的関係の諸法則を理解できる。 ・ 水のイオン積を理解できる。また、常用対数を用いて水素イオン指数pHを求めることができる。 ・ 様々な酸化還元反応を通して酸化数や電子の授受を考察できる。 ・ 金属と金属イオンの水溶液や酸との反応から、イオン化傾向の大小を考察できる。
第2章 酸と塩基	3	化学の基礎法則と原子説・分子説 水のイオン積とpH	○	○			
	3						
第3章 酸化還元反応	4	酸化還元反応	○	○			
	4	金属のイオン化傾向		○	○		
センター試験対策 家庭学習期間	10 11	センター試験対策演習				○	

【基本情報】

教 科	理 科	学 年	3 年	教科書	
科 目	ベーシック生物 β	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	リード α 生物基礎（数研出版）
科 目 概 要	第 1 編 生物と遺伝子 第 1 章 生物の特徴 第 2 章 遺伝子とその働き 第 2 編 生物の体内環境の維持 第 3 章 生物の体内環境 第 3 編 生物の多様性と生態系 第 4 章 バイオームの多様性と分布 第 5 章 生態系とその保全				
到 達 目 標	・細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を学ぶことにより、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。 ・生物には体内環境を維持する仕組みがあることを学ぶことにより、体内環境の維持と健康との関係について理解できるようになる。 ・生態系の成り立ちを学ぶことにより、その保全の重要性を理解できるようになる。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値55以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は実験を行う。実験後はレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノートに写すこと。				
留 意 事 項	・教科書とセミナーは併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家 庭 学 習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自家庭で解くようにすること。				
備 考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身につけている。	20%	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
B. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	30%	
C. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	20%	
D. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	30%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第3章 生物の体内環境							
1 体液とその働き	7	体内環境と恒常性、体液とその循環、血液の凝固、腎臓と肝臓の役割について	○		○		多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系、免疫について理解する。
2 生体防御	6	自然免疫、獲得免疫、免疫と病気について	○	○			
3 体内環境の維持のしくみ	5	自律神経系とホルモンによる調節について		○		○	
3 体内環境の維持のしくみ	4		○	○			植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを理解する。
第4章 バイオームの多様性と分布							
1 生物の多様性とバイオーム	1	植生とその成り立ち、森林・草原・荒原について		○		○	
2 バイオームの形成過程	8	植生の遷移、遷移の過程、遷移のしくみについて	○	○			
3 バイオームとその分布	5	気候とバイオーム、バイオームとその分布について		○		○	
第5章 生態系とその保全							生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていること、人類は生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。
1 生態系	1	生態系の成り立ち、さまざまな生態系、炭素の循環とエネルギーの流れ、窒素の循環について	○	○			
2 生態系のバランスと保全	1	生態系のバランスについて 外来生物の移入、森林の伐採、生物濃縮、生態系の保全について	○	○			
3 生態系の保全	1		○			○	